

家庭教育通信

小学校中学年期のこどもたち1

令和3年5月11日発行

何かにつけ親への反抗が目立ってきました

小学校生活にも慣れた3年生～4年生くらいの時期は、親に反抗的な態度をとったり、イライラして怒りっぽくなるこどもが増えてきます。

中間反抗期とは

第一反抗期（「イヤイヤ期」と呼ばれる2～3歳頃）と第二反抗期（「思春期」小学校高学年～中学生頃）の間である、小学校低学年～中学年頃にも「中間反抗期」と呼ばれるプチ反抗期があり、こどもの成長には欠かせないものと言われています。他の反抗期ほど激しくはないものの、その態度や言動に戸惑う保護者の方も多いようです。

どんな特徴が見られる？

- 親に何かと口答えをして食ってかかる
- イライラした様子で親と会話をしたがない
- 生活態度などに関して注意しても聞こうとしない
- 親が手助けするのを嫌がる

この時期のこどもたちは、親への依存から友だちの社会へと移っていく中で、様々な体験をしながら頑張っています。イライラは、「自分の思いをうまく言葉に整理できない」ことが一番の原因とも言われています。

中間反抗期のこどもへの接し方

こどもが「気持ちを言葉で表現」できるように、安心して話せる環境を作ってみましょう。話しやすいように「どうしたの」「何かあった」と誘いの言葉をかけてあげる、話を聞くときには「聞き手に徹する」ことも大事なポイントです。

この時期、こどもが口答えをするのは、自分の考えを認めてもらいたいからです。たとえこどもの言い分が間違っているとしても、「そう思うんだね。わかったよ」といったんは「受け入れる」態度を示しましょう。ただ、言いなりになることとは違います。言っても聞かない場合に、親が代わりにやってしまうのではなく、「自分でできることは自分でしよう」とはっきり伝えて任せましょう。人を傷つける言い方をしたら、「そういうふうに言われると、悲しくなる」としっかり教えることも大切です。

中間反抗期も成長の表れです。自我が育ち、自分で考え行動しようとする気持ちが出てきています。「しっかり育てている証拠」なのです。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676